

デクセリアルズ株式会社の企業概要と沿革

Felo AI

1. デクセリアルズ株式会社の概要

1.1 企業概要

1.1.1 基本情報

デクセリアルズ株式会社は、電子部品、接合材料、光学材料などの製造・販売を行う日本の企業であり、特に高機能性材料の分野で世界的な競争力を持っています。本社は栃木県下野市下坪山 1724 に位置し、2012年6月20日に設立されました[1][2]。同社は、ソニーケミカル株式会社を前身とし、ソニーグループから独立して現在の形態となっています[3][6]。

- 本社所在地: 栃木県下野市下坪山 1724
- 設立: 2012年6月20日
- 資本金: 16,251百万円 (2024年3月31日現在)
- 従業員数: 1,892名 (連結、2024年3月31日現在)
- 売上高: 105,198百万円 (2024年3月31日現在) [1][2][6]

デクセリアルズ株式会社は、スマートフォン、タブレット、テレビ、自動車などの幅広い分野で使用される高機能性材料を提供しており、特に電子材料や光学材料の分野で高いシェアを持っています[1][2][5]。

1.1.2 主力製品

デクセリアルズ株式会社の主力製品は、以下のような高機能性材料で構成されています。これらの製品は、エレクトロニクス、自動車、医療、建築などの多岐にわたる分野で使用されています。

- 異方性導電膜 (ACF) : 電子部品の接続に使用される高精度な接合材料で、スマートフォンやディスプレイなどに広く採用されています[1][17]。
- 光学弾性樹脂 (SVR) : ディ스플레이や光学デバイスに使用される材料で、高い透明性と耐久性を持ちます[1][17]。

- **反射防止フィルム:** 高い光透過率と曇りにくさを実現する製品で、ノート PC や車載ディスプレイに使用されています[1][17]。
- **熱伝導シート:** 放熱性能を向上させる材料で、電子機器や自動車部品に使用されています[1][17]。
- **表面実装型ヒューズ:** 電子機器の保護部品として使用され、リチウムイオンバッテリーの安全性向上にも寄与しています[1][17]。

これらの製品は、同社の独自技術を活用して開発されており、特に異方性導電膜（ACF）や光学弾性樹脂（SVR）は、世界市場で高いシェアを誇っています[1][17]。

1.2 沿革

1.2.1 創業から現在までの歴史

デクセリアルズ株式会社の歴史は、1962年に設立されたソニーケミカル株式会社に遡ります。同社は、ソニーグループの一員としてスタートし、2012年に独立して現在の社名に変更されました[3][6]。

- **1962年:** ソニーケミカル株式会社設立。プリント基板用接着剤付き銅箔の製造・販売を開始[3][6]。
- **1977年:** 異方性導電膜（ACF）の製品化を業界に先駆けて実現[3][6]。
- **2012年:** ソニーグループから独立し、デクセリアルズ株式会社として事業開始[3][6]。
- **2015年:** 東京証券取引所市場第一部に再上場[3][6]。
- **2021年:** 本社を栃木県下野市に移転[3][6]。

このように、デクセリアルズ株式会社は、長年にわたり培った技術力を活かし、エレクトロニクス分野を中心に事業を展開してきました。また、近年では自動車や環境、ライフサイエンスなどの新領域にも進出しています[3][6]。

1.2.2 近年の動向

デクセリアルズ株式会社は、近年、以下のような重要な動きを見せています。

- **2022年:** 京都セミコンダクター株式会社がグループに加入。これにより、フォトニクス分野での事業拡大を図っています[3][6]。
- **2024年:** フォトニクス分野への注力を強化し、生成 AI や次世代通信技術に対応する光半導体デバイスの開発を加速しています[3][6]。

これらの取り組みを通じて、デクセリアルズ株式会社は、持続可能な社会の実現に向けた技術革新を推進し、グローバル市場での競争力をさらに高めています[3][6]。

2. デクセリアルズ株式会社の企業文化と経営理念

2.1 経営理念

2.1.1 基本理念

デクセリアルズ株式会社の経営理念は、「Integrity（誠心誠意・真摯であれ）」を基盤としています。この理念は、同社の全ての活動において誠実さと真摯さを重視し、顧客や社会に対して高い価値を提供することを目指しています。社員一人ひとりがこの理念を実践し、顧客の期待を超える価値を創造することが求められています[12][13]。

さらに、企業ビジョンとして「Value Matters（今までなかったものを。世界の価値になるものを。）」を掲げています。このビジョンは、デクセリアルズが独自の技術と革新を通じて、社会や地球環境に新しい価値を提供し続けることを目指す姿勢を表しています。同社は、これを実現するために、技術革新と顧客価値の最大化を追求しています[13][14]。

また、同社のパーパス（存在意義）は「Empower Evolution.（つなごう、テクノロジーの進化を）」です。このパーパスは、デジタルテクノロジーの進化を支える材料やデバイス、ソリューションを提供することで、社会の発展に寄与することを使命としています。これにより、同社は人と技術、社会と希望をつなぎ、より効率的で豊かな社会の実現を目指しています[13][14]。

これらの理念、ビジョン、パーパスは、デクセリアルズの全ての事業活動の指針となっており、社員一人ひとりがこれを共有し、実践することで、持続可能な成長と社会貢献を実現しています。

2.2 企業文化

2.2.1 人材育成と多様性

デクセリアルズ株式会社は、「社員は最大の経営資源であり、価値創造の源泉である」という考えのもと、社員一人ひとりの成長を重視しています。同社は、社員が「自ら学び、自ら考え、自ら行動し、成長し続ける」ことを求めており、それを支援するための多様な教育研修プログラムを提供しています[12][14]。

教育研修プログラム

新入社員研修やマネジメント力強化研修、自己啓発支援など、社員のキャリア形成を支援するためのプログラムが整備されています。特に、通信教育やeラーニングを活用した自己啓発支援制度は、社員が新たな知識を習得し、成長するための重要な手段となっています[12]。

ダイバーシティ推進

デクセリアルズは、多様性を重視し、性別、国籍、障がいの有無に関わらず、全ての社員が活躍できる環境を整備しています。リモートワーク制度や柔軟な働き方の導入により、社員が能力を最大限に発揮できる場を提供しています。また、女性活躍推進の一環として、女性管理職の増加を目指し、具体的な目標を設定しています[12][15]。

これらの取り組みにより、デクセリアルズは、多様な人材が共に成長し、価値を創造する企業文化を築いています。

2.2.2 健康経営

デクセリアルズ株式会社は、社員の健康を企業の成長の基盤と位置づけ、健康経営を推進しています。同社は、社員が心身ともに健康で働ける環境を整えるため、以下のような取り組みを行っています[16]。

禁煙活動と健康宣言

2024年までに全国の拠点で敷地内全面禁煙を実現する計画を進めています。また、禁煙サポートやリフレッシュスペースの設置など、社員が禁煙に取り組みやすい環境を提供しています[16]。

健康増進施策

ウォーキングイベントやオンラインセミナーを通じて、社員の健康意識を高める活動を実施しています。特に、ウォーキングイベントでは、一定の歩数を達成した社員に対して果物を贈るなど、楽しみながら健康を促進する仕組みが導入されています[16]。

これらの取り組みを通じて、デクセリアルズは、社員の健康を支援し、企業全体の活性化と生産性向上を図っています。

2.2.3 倫理と人権尊重

デクセリアルズ株式会社は、「人権の尊重」を重要な企業責任と捉え、差別やハラスメントの防止に努めています。同社は、全社員が安心して働ける環境を提供するため、以下のような取り組みを行っています[15]。

差別やハラスメントの防止

「デクセリアルズグループ行動規範」に基づき、差別やハラスメントを防止するための教育や研修を実施しています。また、心理的安全性を高めるための講座を開講し、社員間の信頼関係を構築する取り組みを進めています[15]。

内部通報制度と相談窓口

内部通報制度を設け、社員が匿名で問題を報告できる仕組みを整備しています。さらに、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語での通報受付が可能な多言語対応の相談窓口を設置し、グローバルな社員にも対応しています[15]。これらの取り組みにより、デクセリアルズは、全ての社員が尊重され、安心して働ける職場環境を実現しています。

3. デクセリアルズ株式会社の製品・サービス分析

3.1 製品情報

3.1.1 接合材料

デクセリアルズ株式会社は、接合材料分野において高い技術力を持ち、さまざまな用途に対応する製品を提供しています。これらの製品は、エレクトロニクス分野を中心に、スマートフォン、タブレット、ノート PC、ディスプレイなどの幅広いデバイスで使用されています。

異方性導電膜（ACF）

異方性導電膜（ACF）は、デクセリアルズの主力製品の一つであり、電子部品の接続に使用される高精度な接合材料です。この製品は、ディスプレイパネルや IC チップの実装において重要な役割を果たしており、特にスマートフォンやフレキシブル OLED ディスプレイ向けに高い需要があります。粒子整列型 ACF は、接続精度と信頼性を向上させる技術として注目されており、デクセリアルズはこの分野で世界シェア No.1 を誇ります[17][19][24]。

FPC 用ボンディングシート

FPC（フレキシブルプリント基板）用ボンディングシートは、フレキシブル基板の接合に適した材料であり、軽量化や高密度化が求められるデバイスに最適です。この製品は、スマートフォンやタブレットなどのモバイルデバイスにおいて、基板間の接続を確実にするために使用されています[17][18]。

両面・片面テープ

デクセリアルズの両面・片面テープは、汎用的な接着用途に対応する製品であり、エレクトロニクス分野だけでなく、建築や医療分野でも活用されています。これらのテープは、耐熱性や耐久性に優れ、さまざまな環境下での使用が可能です[17][18]。

3.1.2 光学材料

光学材料分野では、デクセリアルズは高い技術力を活かし、ディスプレイや光学デバイスに使用される製品を提供しています。これらの製品は、視認性の向上や光学性能の最適化を目的としています。

反射防止フィルム

反射防止フィルムは、ディスプレイの視認性を向上させるために使用される製品であり、特にモスアイ構造を採用したタイプは高い光透過率と曇りにくさを実現しています。この製品は、ノート PC や車載ディスプレイなどで広く使用されており、デクセリアルズの技術力が評価されています[17][18][24]。

光学弾性樹脂 (SVR)

光学弾性樹脂 (SVR) は、ディスプレイや光学デバイスの接合に使用される材料であり、高い透明性と耐久性を備えています。この製品は、ディスプレイパネルの視認性を向上させるだけでなく、衝撃吸収性能も持ち合わせており、スマートフォンやタブレットなどのデバイスで使用されています[17][18][24]。

3.1.3 電子部品

デクセリアルズは、電子部品分野においても高い競争力を持ち、さまざまな用途に対応する製品を提供しています。

表面実装型ヒューズ

表面実装型ヒューズは、電子機器の保護部品として使用される製品であり、特にリチウムイオン電池を搭載する電動工具や電動バイク向けに需要が高まっています。この製品は、過電流や短絡から電子機器を保護する役割を果たします[17][18][24]。

熱伝導シート

熱伝導シートは、電子機器の放熱性能を向上させるために使用される材料であり、特に高性能なデバイスにおいて重要な役割を果たします。この製品は、スマートフォンやノート PC、車載ディスプレイなどで使用されています[17][18][24]。

3.1.4 その他の製品

デクセリアルズは、エレクトロニクス分野以外にも、医療や建築分野で使用される製品を提供しています。

医療用アイシールド材

医療用アイシールド材（デクシールド）は、高い視認性と快適性を提供する製品であり、医療現場での使用に適しています。この製品は、反射防止フィルムを応用しており、曇りにくい特性を持っています[17][18][24]。

建築用ウィンドーフィルム

建築用ウィンドーフィルムは、建築物のエネルギー効率を向上させるために使用される製品であり、断熱性や遮熱性に優れています。この製品は、持続可能な社会の実現に貢献するための環境対応型製品として注目されています[17][18][24]。

3.2 サービス情報

デクセリアルズは、製品提供だけでなく、顧客の課題解決や技術サポートを通じて付加価値を提供しています。

3.2.1 顧客対応

課題解決型の提案

デクセリアルズは、顧客の課題を深掘りし、最適な製品やソリューションを提案する「課題解決型の提案」を行っています。これにより、顧客のニーズに応じたカスタマイズ製品を迅速に提供し、顧客満足度を向上させています[19][21][29]。

生産性向上を目的とした改良品の提供

製品の量産立ち上げ支援や生産性向上を目的とした改良品の提供も行っており、顧客の生産効率を向上させるためのサポートを実施しています[19][21][29]。

3.2.2 技術サポート

分析・解析技術の提供

デクセリアルズは、製品開発や技術課題の解決を支援するために、分析・解析技術を提供しています。これにより、顧客の技術的な課題を迅速に解決することが可能です[19][21][29]。

シミュレーションを活用した技術支援

シミュレーションを活用した技術支援を通じて、製品性能の最適化や製造プロセスの改善をサポートしています。この取り組みは、顧客の製品開発を加速させるための重要な要素となっています[19][21][29]。

4. デクセリアルズ株式会社の財務分析

4.1 売上高と利益の推移

デクセリアルズ株式会社は、近年、売上高と利益の両面で安定した成長を遂げています。2024年3月期の連結売上高は1,051.98億円、営業利益は334.21億円に達し、営業利益率は31.77%と高い水準を維持しました[25][26][27]。この成長は、主に高付加価値製品の拡大と、光学材料部品事業および電子材料部品事業の堅調な推移によるものです。

2025年3月期の業績予想では、売上高が1,100億円、営業利益が370億円に達すると見込まれています。これにより、前年同期比で売上高は4.6%増、営業利益は8.5%増となる見通しです[25][26][27]。特に、光学材料部品事業における反射防止フィルムや光学弾性樹脂の需要増加が、業績を牽引する要因となっています。

また、税引前利益は377億円、純利益は270億円と予想されており、これらの数値はそれぞれ前年同期比で22.0%増、26.3%増となる見込みです[25][27]。このような成長は、同社の高付加価値製品の市場シェア拡大と、効率的なコスト管理によるものと考えられます。

4.2 セグメント別業績

デクセリアルズ株式会社の事業は、主に「光学材料部品事業」と「電子材料部品事業」の2つのセグメントに分かれています。それぞれのセグメントにおける業績は以下の通りです。

1. 光学材料部品事業

光学材料部品事業では、反射防止フィルムや光学弾性樹脂（SVR）が好調に推移しています。特に、ノートPCや自動車向け製品の需要増加が、売上高と利益の増加に寄与しました[25][27]。また、自動車向け反射防止フィルムの専用製造ラインが2024年4月に稼働を開始し、さらなる需要拡大に対応しています[44]。

2. 電子材料部品事業

電子材料部品事業では、異方性導電膜（ACF）が中国および韓国市場での需要拡大により堅調に推移しました。一方で、表面実装型ヒューズは一部市場で低調な動きが見られたものの、全体的には安定した業績を維持しています[25][27]。また、フォトリソカテゴリーでは、光半導体デバイスの需要が一部地域で減少したものの、新規案件の獲得により全体的な業績は堅調に推移しました[25]。

これらのセグメント別業績の結果、同社は全体として増収増益を達成しており、今後も高付加価値製品の拡大を通じてさらなる成長が期待されています。

4.3 財務指標

デクセリアルズ株式会社の財務指標は、収益性と財務健全性の両面で優れたパフォーマンスを示しています。

1. 収益性

- ROE（自己資本利益率）は **27.06%**と高水準を維持しています[25][27]。
- 営業利益率は **31.77%**で、前年同期比で改善が見られます[25][27]。

2. 財務健全性

- 自己資本比率は **61.55%**と高い水準を維持しており、同社の財務基盤の安定性を示しています[25][27]。
- 総資産は **1,400.73** 億円、純資産は **851.22** 億円に達しており、健全な財務状況を維持しています[25][27]。

これらの指標は、同社が持続可能な成長を実現するための強固な基盤を持っていることを示しています。

4.4 キャッシュフロー

デクセリアルズ株式会社のキャッシュフローは、営業活動によるキャッシュフローの増加と、投資活動によるキャッシュフローの適切な管理が特徴です。

1. 営業キャッシュフロー

2024年3月期の営業キャッシュフローは **274.57** 億円に達し、前年同期比で増加しました[25][27]。これは、高付加価値製品の売上増加と効率的なコスト管理によるものです。

2. 投資キャッシュフロー

投資キャッシュフローは **-108.66** 億円となり、主に新製品ラインの設置や研究開発への投資が影響しています[25][27]。特に、自動車向け反射防止フィルムの専用製造ラインやフォトニクス分野への投資が注目されます[44]。

3. フリーキャッシュフロー

フリーキャッシュフローは **165.91** 億円で、同社の健全なキャッシュフロー管理を示しています[25][27]。

これらのキャッシュフローの動向は、同社が持続可能な成長を実現するための資金管理能力を持っていることを示しています。

4.5 配当と株主還元

デクセリアルズ株式会社は、株主還元を重視した経営方針を採用しており、配当性向や自社株買いを通じて株主価値の向上を図っています。

1. 配当

2024年3月期の1株当たり配当金は **58** 円で、配当性向は約 **30%**を維持しています[25][27]。これは、安定した収益基盤を背景に、株主への還元を重視していることを示しています。

2. 株主還元

同社は、自社株買いを含む総還元性向を高めることで、株主価値の向上に努めています[25][27]。これにより、株主との信頼関係を強化し、長期的な企業価値の向上を目指しています。

デクセリアルズ株式会社の財務分析からは、同社が収益性、財務健全性、キャッシュフロー管理、株主還元のいずれにおいても優れたパフォーマンスを示していることが明らかです。これらの要素は、同社が持続可能な成長を実現するための強固な基盤を形成しています。

5. デクセリアルズ株式会社の技術革新と競争優位性

5.1 技術革新の取り組み

5.1.1 コア技術の活用

デクセリアルズ株式会社は、独自のコア技術を活用し、エレクトロニクスやフォトニクス分野を中心に革新的な製品を開発しています。同社の技術革新の基盤となるのは、以下の3つのコア技術です。

- **材料技術**

デクセリアルズは、液状・フィルム状の接合材料や光学材料など、最先端の電気・電子機器に使用される機能性材料を開発しています。これには、有機系技術（材料の混合・分散・合成）や無機系技術（結晶成長など）が含まれます。また、フィルム状の基材に材料を塗布する技術や真空環境下での薄膜形成技術も活用されています。これらの技術は、スマートフォンやノート PC、自動車などの幅広い分野で使用される高付加価値製品の基盤となっています[28][29]。

- **プロセス技術**

デクセリアルズは、製造プロセスの最適化を目指し、微細構造形成技術や高精度な裁断技術を駆使しています。特に、ナノからミクロンオーダーでの加工が可能な微細構造形成技術は、光学材料や電子部品の製造において重要な役割を果たしています。また、**Roll to Roll** 方式のインプリント技術を活用し、フィルム状基材への微細構造体形成を実現しています[21][29]。

- **分析解析技術**

高感度・高分解能の計測機器を活用し、製品や開発品に関する高度な分析解析を行っています。これにより、顧客の課題を迅速かつ的確に解決することが可能です。また、流体、構造、光学に関するシミュレーションを活用し、製品性能の検証やプロセス条件の最適化を行っています[29][30]。

これらの技術を組み合わせることで、デクセリアルズは顧客のニーズに応じたカスタマイズ製品を迅速に提供し、競争力を高めています。

5.1.2 DX の推進

デクセリアルズは、デジタルトランスフォーメーション（DX）を通じて業務効率化やデータドリブン経営を推進しています。DXの取り組みは、以下のような具体的な施策に基づいています。

- **統合基盤の構築**

営業活動から受注、開発、生産、出荷に至るサプライチェーン全体で情報をリアルタイムに共有する統合基盤を構築しています。これにより、リードタイムの短縮や顧客満足度の向上が実現されています。また、情報の一元化により、データ駆動型の意思決定が迅速に行える体制を整えています[22][30]。

- **生成 AI の活用**

デクセリアルズは、生成 AI を活用した「技術開発領域可視化システム」を構築し、新規領域の製品・技術開発に有望な要素技術を迅速に探索しています。また、社内外のデータを最大限に活用する仕組みを構築し、業務効率化や新たな付加価値の創出を目指しています[23][30]。

- **DX 人材の育成**

DXを推進するため、社員のデジタルリテラシー向上を目的としたトレーニングプログラム「D-academy」を展開しています。このプログラムでは、DX推進者としてのスキルを体系的に学び、各組織でのDX推進を支援する体制を整えています[22][30]。

これらの取り組みにより、デクセリアルズは顧客ニーズに迅速かつ的確に対応し、新たな市場機会を創出しています。

5.2 自動車産業への技術展開

デクセリアルズは、自動車分野における技術革新にも注力しており、特に自動運転技術やディスプレイ技術に関連する製品開発を強化しています。

- **北米拠点の設立**

デクセリアルズは、北米の自動車産業の中心地であるデトロイト近郊に拠点を設立しました。この拠点では、自動車メーカーとの密接な連携を強化し、設計段階からの提案（デザインイン）や仕様策定（スペックイン）活動を通じて、顧客の課題解決を支援しています[28]。

- **光学ソリューションの提供**

自動車向けの光学材料として、反射防止フィルムや光学弾性樹脂（SVR）を提供しています。これらの製品は、車載ディスプレイやセンサーモジュールに使用されており、光学ノイズの低減や防曇機能の向上に寄与しています。

また、ナノ構造表面を活用した光学性能の向上技術も開発されています[28][44]。

これらの取り組みを通じて、デクセリアルズは自動車産業における存在感を高め、競争力を強化しています。

5.3 競争優位性

デクセリアルズの競争優位性は、以下の点に集約されます。

- **ニッチ市場での高シェア**

デクセリアルズは、異方性導電膜（ACF）や光学弾性樹脂（SVR）など、ニッチ市場で世界シェア No.1 を誇る製品を多数保有しています。これにより、競合他社との差別化を実現しています[37][29]。

- **顧客密着型のアプローチ**

同社は、直接顧客（部品メーカー）と最終顧客（完成品メーカー）の双方にアプローチし、顧客の課題を深掘りして解決策を提案する「対話力×提案力」を強みとしています。また、量産立ち上げ支援や生産性向上を目的とした改良品の提供も行っています[29][37]。

これらの競争優位性を活かし、デクセリアルズは持続可能な成長を目指しています。

6. デクセリアルズ株式会社の知財戦略

6.1 知財戦略の基本方針

デクセリアルズ株式会社は、知的財産（IP）を重要な経営資産と位置づけ、企業価値の向上と持続的成長を支えるために、戦略的な知財活動を展開しています。同社の知財戦略は、以下のような基本方針に基づいています。

6.1.1 コア特許活用戦略

デクセリアルズは、主力事業の競争力を強化するために「コア特許活用戦略」を推進しています。この戦略では、事業カテゴリーごとの特許スコアを社内で分析し、事業の意思決定に活用しています。これにより、特許の価値を最大化し、競争優位性を確保することを目指しています[32][33]。

また、特許スコアと EBITDA（稼ぐ力）の相関性をモニタリングすることで、特許の経済的価値を可視化し、知財投資の効率性を高めています。この取り組みにより、特許が事業収益にどのように貢献しているかを明確にし、知財リソースを最適に配分しています[32][33]。

6.1.2 知財共創戦略

デクセリアルズは、他部門との連携を強化し、新規領域での IP ランドスケープを推進する「知財共創戦略」を展開しています。この戦略では、知財情報を経営戦略や事業戦略に統合し、経営層や事業責任者と共有することで、知財を活用し

た新規事業の創出を目指しています[32][33]。

さらに、知財共創戦略の一環として、知財の事業貢献度を積極的に開示し、投資家とのエンゲージメントを深める「知財IR戦略」も推進しています。この取り組みは、知財の透明性を高め、ステークホルダーとの信頼関係を強化することを目的としています[32][33]。

6.2 知財ポートフォリオの最適化

デクセリアルズは、特許ポートフォリオを毎年見直し、効率的かつ効果的な知財管理を実現しています。このプロセスでは、特許の価値を最大化し、事業の競争力を高めるための具体的な施策が実施されています。

6.2.1 グローバルな権利化

デクセリアルズは、グローバル市場での競争力を強化するために、特許の国際的な権利化を積極的に推進しています。同社の外国特許出願率は70%以上、海外特許の保有比率は66%と高水準を維持しており、これによりグローバル市場での参入障壁を構築しています[32][33]。

また、特許の権利化プロセスでは、各国の特許庁での審査を経て登録された特許を活用し、直接顧客から最終顧客まで幅広いソリューションを提供しています。この取り組みにより、デクセリアルズは国際市場での競争優位性を確立しています[32][33]。

6.2.2 未活用特許の活用

デクセリアルズは、使用されなくなった特許群を売却またはライセンス供与することで、知財のプロフィット化を推進しています。例えば、排水処理剤の特許を他社に売却することで、環境関連技術の有効活用を図っています[32][33]。

さらに、特許ポートフォリオの見直しにより、未活用特許を削減し、知財リソースを新規事業や開発テーマに転換しています。この取り組みは、知財の効率的な管理と事業成長の両立を実現する重要な要素となっています[32][33]。

6.3 知財とオープンイノベーション

デクセリアルズは、オープンイノベーションを推進し、外部パートナーとの連携を強化することで、知財の活用範囲を拡大しています。

6.3.1 WIPO GREEN への参画

デクセリアルズは、世界知的所有権機関（WIPO）が推進する環境技術・知財のマッチングプラットフォーム「WIPO

GREEN」に参画しています。このプラットフォームを通じて、100件以上の環境関連特許を活用し、持続可能な社会の実現に貢献しています[32][33]。

WIPO GREEN への参画は、デクセリアルズの環境対応型製品の開発や、環境技術の普及を促進する重要な取り組みの一環です。この活動により、同社は環境分野でのリーダーシップを強化しています[32][33]。

6.3.2 共同研究の推進

デクセリアルズは、大学や研究機関との共同研究を通じて、知財の活用と技術革新を推進しています。例えば、2023年には東北大学と「光メタセンシング®共創研究所」を設立し、知財を活用した共同研究を進めています[32][33]。

この共同研究では、光学技術やセンサー技術の高度化を目指し、新たな製品やソリューションの開発が進められています。これにより、デクセリアルズは市場での競争力をさらに高めています[32][33]。

デクセリアルズの知財戦略は、コア特許の活用、特許ポートフォリオの最適化、そしてオープンイノベーションの推進を通じて、企業価値の向上と持続可能な成長を実現する重要な柱となっています。これらの取り組みにより、同社は知財を競争優位性の源泉とし、グローバル市場での存在感を高めています。

7. デクセリアルズ株式会社の SWOT 分析

7.1 強み

1. ニッチ市場での高いシェア

デクセリアルズ株式会社は、異方性導電膜（ACF）や光学弾性樹脂（SVR）など、特定のニッチ市場で世界シェア No.1 を誇る製品を多数保有しています[37][38]。これらの製品は、スマートフォン、タブレット、ノート PC、ディスプレイ、自動車などの幅広い分野で使用されており、同社の収益基盤を支える重要な要素となっています。特に、異方性導電膜（ACF）は、ディスプレイやセンサーモジュールの接続において業界標準となっており、競合他社との差別化を実現しています[37][39]。

また、同社の製品は高い参入障壁を持つことが特徴であり、これにより市場での競争優位性を維持しています。例えば、光学弾性樹脂（SVR）は、ディスプレイの視認性を向上させるために不可欠な材料であり、特に高品質なディスプレイを求める市場で高い評価を得ています[37][39]。

2. 独自技術と高付加価値製品

デクセリアルズは、材料技術、プロセス技術、分析解析技術、評価技術の4つのコア技術を基盤に、顧客の課題を解決する高付加価値製品を提供しています[28][37]。これらの技術は、顧客のニーズに応じたカスタマイズ製品の開発を可能にし、顧客満足度を向上させています。

さらに、同社は顧客密着型のアプローチを採用しており、顧客との対話を通じて潜在的な課題を抽出し、それに基づいたソリューションを提案しています。この「対話力×提案力」は、顧客からの信頼を高め、長期的な取引関係を築く要因となっています[37][39]。

また、同社の製品は環境対応型であり、持続可能性を重視した製品開発が進められています。例えば、ハロゲンフリー製品や再生可能エネルギー関連材料など、環境に配慮した製品が市場で高い評価を得ています[37][39]。

7.2 弱み

1. 大口顧客への依存

デクセリアルズは、特定の大口顧客への依存度が高いという課題を抱えています[40][41]。特に、スマートフォンやタブレットなどのコンシューマーエレクトロニクス分野において、主要顧客の需要変動が同社の業績に大きな影響を与える可能性があります。このような依存構造は、顧客の購買戦略や市場環境の変化に対する柔軟性を制約する要因となっています[40][41]。

2. 製品ポートフォリオの集中

同社の製品ポートフォリオは、特定の市場や用途に集中しているため、市場環境の変化や競争激化に対するリスクが高まる可能性があります[38][41]。例えば、異方性導電膜（ACF）や光学弾性樹脂（SVR）などの主力製品が特定の市場に依存しているため、新規市場への展開や製品ラインの多様化が求められています[38][41]。

また、研究開発リソースの集中が一部の製品に偏ることで、新規技術や製品の開発が遅れるリスクも指摘されています[53]。

7.3 機会

1. フォトニクス領域の成長

フォトニクス分野は、生成AIや次世代通信技術の進展に伴い、急速に成長している市場です[38][43]。デクセリアルズは、2024年に「デクセリアルズフォトニクスソリューションズ株式会社」を設立し、この分野での事業拡大を進めています[38][43]。特に、光トランシーバー向け高速フォトダイオード（PD）や光半導体デバイスの需要増加が期待されてお

り、同社の技術力を活かした製品開発が進められています[38][43]。

また、自動車分野における光学材料の需要も増加しており、車載ディスプレイやセンサーモジュール向け製品の市場拡大が見込まれています[38][43]。

2. 環境対応型製品の需要増加

持続可能性への関心が高まる中、環境対応型製品の需要が増加しています[37][39]。デクセリアルズは、ハロゲンフリー製品や再生可能エネルギー関連材料の開発を通じて、この市場での競争力を強化しています[37][39]。

特に、太陽電池用タブ線接合材料や防曇防汚ソリューションなど、環境に配慮した製品が注目されており、これらの製品を通じて新たな市場機会を創出しています[37][39]。

7.4 脅威

1. 競争の激化

デクセリアルズが展開する市場では、特に中国や韓国を中心に競合他社の台頭が激しく、価格競争や技術競争が一層厳しくなる可能性があります[40][41]。これにより、同社の市場シェアや利益率が圧迫されるリスクが存在します。

また、技術革新のスピードが速い分野では、競合他社に対する技術的優位性を維持するために、継続的な研究開発投資が必要です[46][47]。

2. 原材料価格の変動

原材料価格の上昇や供給不足が、製造コストや利益率に影響を与えるリスクがあります[41][47]。特に、同社が使用する特殊材料の価格変動は、製品価格や収益性に直接的な影響を及ぼす可能性があります。

さらに、地政学的リスクやサプライチェーンの混乱も、原材料の調達に影響を与える要因となっています[46][47]。これに対応するためには、サプライチェーンの多様化やリスク管理の強化が求められます[47][48]。

8. デクセリアルズ株式会社のグローバル戦略と展開

8.1 グローバル戦略の概要

1. 成長市場への注力

デクセリアルズ株式会社は、グローバル市場での競争力を強化するため、成長市場への注力を戦略の中心に据えています。特に、自動車およびフォトニクス分野を中心に、成長が見込まれる市場での事業拡大を図っています。これらの分野は、デジタル技術の進化や環境対応型製品の需要増加に伴い、今後も大きな成長が期待されています[42][43]。

自動車分野では、先進運転支援システム（ADAS）の進化や電動化の進展により、車載ディスプレイやセンサー向け製品の需要が急増しています。デクセリアルズは、これらの需要に対応するため、北米を中心とした拠点の強化や新製品の開発を進めています[28][42]。

フォトニクス分野では、生成 AI や次世代通信技術の進展に伴い、光トランシーバーや高速フォトダイオード（PD）などの需要が拡大しています。同社は、2024年に「デクセリアルズ フォトニクス ソリューションズ株式会社」を設立し、フォトニクス領域での事業拡大を加速させています[38][43]。

2. 地域ごとの特化戦略

デクセリアルズは、地域ごとの市場特性に応じた特化戦略を展開しています。アジア、北米、欧州の各地域で異なるアプローチを採用し、顧客ニーズに応じた製品とサービスを提供しています。

アジア市場では、中国や韓国を中心にディスプレイ関連製品の需要が高まっており、現地顧客との密接な連携を強化しています[42][44]。北米市場では、自動車メーカーとの協業を通じて、車載ディスプレイやセンサー向け製品の市場シェアを拡大しています[28][42]。欧州市場では、特定用途向け製品の販売を強化し、地域ごとのニーズに応じた製品展開を実施しています[44][42]。

また、各地域での特化戦略を支えるため、デザイン・インやスペック・インの活動を強化し、顧客との密接な連携を図っています。これにより、地域ごとの市場特性に応じた製品開発と販売戦略を実現しています[43][42]。

8.2 海外拠点と売上構成

1. 主な拠点: アジア、北米、欧州

デクセリアルズは、世界7カ国・地域に10の製造・販売拠点を展開しており、海外売上高比率は約80%に達しています[44]。これにより、同社はグローバル市場での存在感を高めています。

アジアでは、中国、韓国、日本を中心に製造・販売拠点を設置し、ディスプレイ関連製品や電子部品の需要に対応しています[42][44]。北米では、デトロイト近郊に拠点を設立し、自動車産業向けの製品開発と販売を強化しています[28][42]。

欧州では、特定市場向けの製品展開を進め、地域ごとのニーズに対応しています[44][42]。

これらの拠点は、地域ごとの市場特性に応じた製品開発と販売戦略を支える重要な役割を果たしています。また、各拠点での活動を通じて、顧客との密接な連携を図り、迅速な対応を実現しています[42][44]。

2. 売上構成

デクセリアルズの売上構成は、海外市場が全体の約 80%を占めており、特にアジア市場での売上が大きな割合を占めています[42][44]。北米市場では、自動車産業向け製品の需要が増加しており、売上の拡大が期待されています[28][42]。欧州市場では、特定用途向け製品の販売が進んでおり、地域ごとのニーズに応じた製品展開が売上拡大に寄与しています[44][42]。

8.3 成長市場への注力

1. 自動車分野

デクセリアルズは、自動車分野での事業拡大を重要な成長戦略の一つとして位置づけています。自動運転技術や電動化の進展に伴い、車載ディスプレイやセンサー向け製品の需要が急増しており、同社はこれらの需要に対応するための取り組みを強化しています[28][42]。

具体的には、デトロイト近郊に拠点を設立し、自動車メーカーとの密接な連携を図っています。また、光学ノイズ低減技術や防曇機能を備えた製品の開発を進め、自動車産業における存在感を高めています[28][42]。

さらに、2024年には自動車向け反射防止フィルムの専用製造ラインを稼働させ、需要拡大に対応しています[44]。これにより、同社は自動車分野での市場シェアを拡大し、成長を続けています[28][42]。

2. フォトニクス分野

フォトニクス分野では、生成 AI や次世代通信技術の進展に伴い、光トランシーバーや高速フォトダイオード (PD) などの需要が拡大しています。デクセリアルズは、2024年に「デクセリアルズ フォトニクス ソリューションズ株式会社」を設立し、フォトニクス領域での事業拡大を加速させています[38][43]。

同社は、増産投資を実行し、次世代の高速通信技術に対応するための研究開発を進めています。また、光学デバイスや光半導体デバイスの開発を通じて、フォトニクス分野での競争力を強化しています[38][43]。

これらの取り組みにより、デクセリアルズはフォトニクス分野での市場シェアを拡大し、成長を続けています。同社は、フォトニクス分野での事業拡大を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています[38][43]。

9. デクセリアルズ株式会社のリスクと課題

9.1 主なリスク

1. 地政学的リスク

デクセリアルズ株式会社は、売上の約 80%を海外市場に依存しており、特に中国や韓国などアジア市場での事業展開が重要な位置を占めています。このため、地政学的な緊張や貿易摩擦、規制の変化が事業運営に大きな影響を与える可能性があります。例えば、米中間の貿易摩擦や関税政策の変更は、同社の製品供給や価格競争力に直接的な影響を及ぼすリスクをはらんでいます[46][47]。

さらに、政治的な不安定性や規制の強化、予期しない法令の変更などもリスク要因として挙げられます。これらのリスクが顕在化した場合、売上の減少やコストの増加、事業運営の混乱を引き起こす可能性があります。同社は、これらのリスクに対応するため、地政学的な変化を適時に把握し、迅速に対応する体制を整えていますが、すべての変化を完全に予測することは困難です[47][48]。

2. サプライチェーンリスク

デクセリアルズは、原材料価格の変動や供給不足といったサプライチェーンリスクにも直面しています。特に、同社の製品に使用される特殊材料や部品の供給が途絶える場合、製造コストの上昇や生産遅延が発生する可能性があります。自然災害やパンデミックなどの外的要因も、サプライチェーンの混乱を引き起こす要因となります[48]。

また、同社はグローバルな事業展開を行っているため、各国の物流インフラや輸送手段の制約もリスクとして挙げられます。例えば、輸送コストの上昇や物流の遅延が、製品の納期や顧客満足度に影響を与える可能性があります。このようなリスクに対処するため、同社は複数の供給元を確保し、サプライチェーンの多様化を進めています。また、BCP（事業継続計画）の策定や訓練を通じて、リスク発生時の対応力を強化しています[48][47]。

さらに、同社はDX（デジタルトランスフォーメーション）を活用したモニタリングシステムの整備を進めており、サプライチェーン全体の可視化を図ることで、リスクの早期発見と迅速な対応を目指しています[48]。

9.2 主な課題

1. 人材の確保と育成

デクセリアルズは、技術革新を支える高度な専門人材の確保と育成が重要な課題となっています。同社はジョブ型人事制度を導入し、グローバル人材の獲得力向上を図っていますが、競争が激しい市場環境ではさらなる取り組みが求められます[46][47]。

特に、フォトニクスや自動車分野といった成長領域では、高度な専門知識を持つ人材が必要とされており、これらの分野での人材育成が急務となっています。同社は「D-academy」と呼ばれるトレーニングプログラムを通じて、社員のデジタルリテラシー向上やリスクリングを推進しています。また、社員一人ひとりが自律的に成長できる環境を整備すること

で、人的資本の価値を最大化する取り組みを進めています[22][48]。

さらに、女性や外国籍社員の登用を含むダイバーシティ推進も課題の一つです。同社は柔軟な働き方の導入や異文化コミュニケーション研修を通じて、多様な人材が活躍できる職場環境の構築を目指しています[12][15]。

2. 事業ポートフォリオの多様化

デクセリアルズの主力製品は特定の市場や用途に集中しており、事業ポートフォリオの多様化が課題となっています。特に、同社の収益はスマートフォンやディスプレイ関連製品に依存しているため、市場環境の変化や競争激化に対する柔軟性が求められます[46][53]。

この課題に対応するため、同社は自動車やフォトニクス分野といった成長領域への注力を進めています。例えば、自動車分野では車載ディスプレイやセンサー向け製品の開発を強化しており、フォトニクス分野では光トランシーバーや高速フォトダイオード（PD）の需要拡大に対応しています[50][51]。

また、環境対応型製品の開発や新規市場への参入を通じて、事業ポートフォリオの多様化を図っています。これには、ハロゲンフリー製品や再生可能エネルギー関連材料の開発が含まれます。同社はこれらの取り組みを通じて、持続可能な成長を目指しています[47][49]。

さらに、M&A（企業買収）や事業提携を活用して新規市場への参入を図る戦略も進めています。例えば、京都セミコンダクターの買収を通じてフォトニクス分野での事業基盤を強化し、新たな成長機会を創出しています[38][53]。

10. デクセリアルズ株式会社の将来展望と成長戦略

10.1 成長領域での事業拡大

10.1.1 自動車分野

デクセリアルズ株式会社は、自動車分野における成長を重要な戦略領域と位置づけています。特に、自動車業界の「CASE」（Connected, Autonomous, Shared, Electric）化の進展に伴い、車載ディスプレイやセンサーモジュールの需要が急速に拡大しています。同社はこれに対応するため、以下のような取り組みを進めています。

- 車載ディスプレイとセンサーモジュール

自動車の先進運転支援システム（ADAS）の進化により、車載ディスプレイの搭載枚数や面積が増加しています。デクセリアルズは、反射防止フィルムや精密接合用樹脂、異方性導電膜（ACF）を活用し、これらの需要に対応しています。2024年には新たな製造ラインを稼働させ、さらなる需要拡大を目指しています[43][50]。

- 北米拠点の設立

自動車産業の中心地である北米市場において、デトロイト近郊に新たな拠点を設立しました。この拠点では、自動車メーカーとの密接な連携を強化し、設計段階からの提案（デザインイン）や仕様策定（スペックイン）を通じて、顧客のニーズに応える体制を整えています[28][43]。

- **光学ソリューションの提供**

光学ノイズ低減技術や防曇機能を備えた製品を開発し、自動車のディスプレイやセンサー技術の進化に貢献しています。これにより、自動運転技術の進展を支える重要な役割を果たしています[28][43]。

10.1.2 フォトニクス分野

フォトニクス分野は、デクセリアルズが新たに注力する成長領域の一つです。生成 AI や次世代通信技術の進展に伴い、光トランシーバーや高速フォトダイオード（PD）の需要が急増しており、同社は以下のような取り組みを進めています。

- **新会社の設立**

2024年4月に「デクセリアルズ フォトニクス ソリューションズ株式会社」を設立し、フォトニクス領域での事業拡大を加速しています。この新会社は、光半導体デバイスや光学デバイスの開発・製造を担い、次世代の高速通信技術に対応する製品を提供しています[38][50]。

- **生成 AI とデータセンター向け製品**

生成 AI の普及やデータセンターの増加により、光トランシーバー向け高速フォトダイオード（PD）の需要が拡大しています。同社は増産投資を実行し、これらの需要に対応しています。また、次世代通信技術に対応するための研究開発も加速しています[50][51]。

- **市場目標**

フォトニクス事業の売上高を 2023 年度比で 2 倍以上の 150 億円に引き上げる計画を掲げています。この成長を通じて、フォトニクス分野での市場シェア拡大を目指しています[51][52]。

10.2 既存事業の質的強化

10.2.1 異方性導電膜（ACF）

異方性導電膜（ACF）は、デクセリアルズの主力製品の一つであり、スマートフォンやフレキシブル OLED ディスプレイ向けに高い需要を誇っています。同社は以下のような取り組みを進めています。

- **新ラインの稼働**

2026年には新たな製造ラインを稼働させ、需要拡大に対応する計画です。また、マイクロ LED ディスプレイやセンサーモジュール向けの新アプリケーション開発も進めています[50][51]。

- **技術革新**

粒子整列型 ACF などの技術革新を通じて、製品の性能向上と市場競争力の強化を図っています。これにより、スマートフォンやディスプレイ市場でのシェア拡大を目指しています[50][51]。

10.2.2 表面実装型ヒューズ

表面実装型ヒューズは、リチウムイオン電池を搭載する電動工具や電動バイク向けに需要が拡大しています。同社は以下のような取り組みを進めています。

- **大電流製品の開発**

電動工具や電動バイク向けに、付加価値の高い大電流製品を提供し、顧客基盤の拡大を図っています[50][51]。

- **市場拡大**

グローバル市場での顧客基盤を強化し、表面実装型ヒューズの売上拡大を目指しています。これにより、既存事業の収益性を最大化する計画です[50][51]。

10.3 経営基盤の進化

10.3.1 DX とスマートファクトリー

デクセリアルズは、デジタルトランスフォーメーション（DX）を通じて経営基盤の進化を図っています。特に、スマートファクトリーの構築を通じて生産効率の向上と持続可能な成長を目指しています。

- **鹿沼第 2 工場の建設**

栃木県鹿沼市に新たな工場を建設し、IoT や AI を活用したスマートファクトリー化を進めています。この工場は、異方性導電膜（ACF）の生産能力を増強し、効率的な生産体制を構築する予定です[45][50]。

- **DX 人材の育成**

DX を推進するための人材育成プログラム「D-academy」を展開し、全社員のデジタルリテラシー向上を図っています。これにより、デジタル技術を活用した業務効率化と競争力強化を実現しています[22][30]。

10.3.2 ESG と持続可能性

デクセリアルズは、環境・社会・ガバナンス（ESG）への対応を経営の重要課題と位置づけ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めています。

- **環境対応型製品の開発**

ハロゲンフリー製品や再生可能エネルギー関連材料の開発を通じて、環境負荷の低減を図っています。また、スマ

ートファクトリーの導入により、エネルギー効率の向上と廃棄物削減を実現しています[50][51]。

- **社会貢献活動**

地域社会との連携を強化し、持続可能な社会の実現に向けた活動を推進しています。これには、社員の健康経営や多様性の推進も含まれます[16][50]。

- **ESG 目標の設定**

2028 年度までに売上高 1,500 億円、事業利益 500 億円、ROE 約 25%を達成することを目標に掲げています。この目標を通じて、持続可能な成長と企業価値の向上を目指しています[51][52]。

11. 結論

デクセリアルズ株式会社は、長年にわたり培った技術力と革新性を基盤に、エレクトロニクス、フォトンクス、自動車分野を中心に事業を展開し、持続可能な成長を目指している企業である。本章では、これまでの分析を踏まえ、同社の全体像を総括し、今後の展望や課題について考察する。

11.1 技術力と競争優位性の確立

デクセリアルズは、異方性導電膜（ACF）や光学弾性樹脂（SVR）など、ニッチ市場で高いシェアを誇る製品を多数保有している[1][2]。これらの製品は、同社のコア技術である材料技術、プロセス技術、分析解析技術、評価技術を基盤に開発されており、顧客の課題を解決する高付加価値製品として市場で評価されている[28][37]。

また、同社は DX（デジタルトランスフォーメーション）を積極的に推進し、生成 AI やビッグデータを活用した技術開発領域の可視化システムを構築するなど、技術革新を加速させている[23][30]。これにより、顧客ニーズに迅速かつ的確に対応し、新たな付加価値を創出する能力を強化している。

さらに、自動車分野では北米拠点の設立や光学ソリューションの提供を通じて、車載ディスプレイやセンサー技術の高度化に貢献している[28]。これらの取り組みは、同社が競争優位性を維持し、成長市場での地位を確立するための重要な要素となっている。

11.2 持続可能性と社会的責任

デクセリアルズは、環境対応型製品の開発や持続可能な社会の実現に向けた取り組みを積極的に進めている。例えば、ハロゲンフリー製品や再生可能エネルギー関連材料の開発を通じて、環境負荷の低減に寄与している[42][43]。また、WIPO GREEN への参画や東北大学との共同研究を通じて、オープンイノベーションを推進し、環境技術の普及に貢献している[32][33]。

さらに、同社は健康経営やダイバーシティ推進を通じて、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場環境を整備している[12][16]。これにより、社員のエンゲージメントを高め、企業全体の活性化を図っている。

11.3 財務基盤の強化と成長戦略

デクセリアルズは、収益性と財務健全性の両面で優れたパフォーマンスを示している。2024年3月期の売上高は1,051.98億円、営業利益は334.21億円に達し、ROEは27.06%と高水準を維持している[25][27]。また、2025年3月期には売上高1,100億円、営業利益370億円を目指しており、成長が期待されている[25][26]。

同社は、自動車およびフォトニクス分野を中心に成長領域での事業拡大を図り、既存事業の質的強化を進めている[50][51]。特に、生成AIや次世代通信技術の進展に伴うフォトニクス関連製品の需要増加に対応するため、増産投資を実行している[38][50]。

11.4 リスクと課題への対応

一方で、デクセリアルズは地政学的リスクやサプライチェーンリスク、競争激化といった課題にも直面している[46][47]。特に、海外市場への依存度が高いため、地政学的な緊張や貿易摩擦が事業運営に影響を与える可能性がある[46][48]。

また、大口顧客への依存や製品ポートフォリオの集中といった課題も指摘されており、事業ポートフォリオの多様化が求められている[40][41]。これに対応するため、同社は新規市場への参入やM&Aを活用した事業拡大を進めている[31][46]。

11.5 将来展望と成長の可能性

デクセリアルズは、2028年度までに売上高1,500億円、事業利益500億円、ROE約25%を達成することを目指している[51][52]。これを実現するためには、成長市場での事業拡大と既存事業の質的強化を両立させることが重要である。

特に、自動車およびフォトニクス分野での技術革新と市場拡大が鍵となる。同社は、光学材料や電子部品の需要増加を背景に、さらなる成長が期待されている[50][51]。また、DXやスマートファクトリーの推進を通じて、生産効率の向上と持続可能性の確保を図っている[45][50]。

デクセリアルズは、これらの取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献しつつ、企業価値のさらなる向上を目指している。

[1. 会社概要 | 会社情報 | デクセリアルズ株式会社](#)

[2. History | About Dexerials](#)

3. [デクセリアルズの歩み | 個人投資家のみなさまへ](#)
4. [デクセリアルズの沿革 | Strainer](#)
5. [The Progress of Dexerials | Investor Relations](#)
6. [デクセリアルズ株式会社の会社概要・製品情報 - Metoree](#)
7. [よくあるご質問 \(投資家情報\) - Dexerials](#)
8. [デクセリアルズ株式会社 事業開始について](#)
9. [デクセリアルズ - Wikipedia](#)
10. [デクセリアルズ \(株\) 【東証プライム上場】 - マイナビ 2026](#)
11. [Corporate Profile | About Dexerials](#)
12. [人材育成・多様性・職場づくり | サステナビリティ - Dexerials](#)
13. [経営理念と企業ビジョン、パーパス | 会社情報 - Dexerials](#)
14. [経営理念と企業ビジョン、パーパス | 経営方針 - Dexerials](#)
15. [人権尊重の取り組み | サステナビリティ - デクセリアルズ](#)
16. [【デクセリアルズ株式会社】社員一人ひとりが自分の持てる力 ...](#)
17. [デクセリアルズの製品 | 個人投資家のみなさまへ](#)
18. [製品・サービス一覧 | デクセリアルズ株式会社](#)
19. [ビジネスモデル | 個人投資家のみなさまへ - Dexerials](#)
20. [デクセリアルズ、顧客が気付かない技術課題を先読みし、最適 ...](#)
21. [デクセリアルズの成膜加工技術、設備、対応分野を調査](#)
22. [DX 戦略 | サステナビリティマネジメント - Dexerials](#)
23. [デクセリアルズと三菱総合研究所、生成 AI による「技術開発 ...](#)
24. [製品情報 | デクセリアルズ株式会社](#)
25. [業績報告 | 業績・財務データ | 投資家情報 - デクセリアルズ](#)
26. [4980 デクセリアルズ | 会社業績 - IR BANK](#)
27. [Dexerials Corp \(4980\) 財務サマリー - Investing.com](#)
28. [デクセリアルズの北米自動運転車市場への戦略的展開](#)
29. [デクセリアルズのこだわり | 個人投資家のみなさまへ - Dexerials](#)
30. [DX 戦略 | サステナビリティマネジメント - Dexerials](#)
31. [事業等のリスク | 経営方針 | 投資家情報 | デクセリアルズ株式 ...](#)
32. [知的財産戦略 | サステナビリティマネジメント - デクセリアルズ](#)
33. [Intellectual Property Strategy | Sustainability | Dexerials](#)
34. [「第 1 回知財・無形資産ガバナンス表彰」特別賞を受賞](#)

35. [Dexerials Honored for Excellence in Intellectual Property ...](#)
36. [Received the Special Award at the 1st Intellectual Property ...](#)
37. [デクセリアルズのこだわり | 個人投資家のみなさまへ - Dexerials](#)
38. [フォトニクス領域の成長をリードする統合会社 ... - Dexerials](#)
39. [リスクマネジメント | サステナビリティ - デクセリアルズ](#)
40. [デクセリアルズの「企業分析 \[強み・弱み・展望\]」 OpenWork](#)
41. [「強み：開発人員が多い 弱み：大口海外顧客依存度が高い ...](#)
42. [世界で活躍するデクセリアルズ | 採用情報](#)
43. [中期経営計画 | 経営方針 | 投資家情報 | デクセリアルズ株式会社](#)
44. [Anisotropic Conductive Film, Anti-reflection Film Produced ...](#)
45. [Notice Regarding Site Acquisition for the Extension of ...](#)
46. [中期経営計画 | 経営方針 | 投資家情報 | デクセリアルズ株式会社](#)
47. [Risk Management | Sustainability - Dexerials](#)
48. [リスクマネジメント | サステナビリティ - デクセリアルズ](#)
49. [価値創造プロセス | サステナビリティ | デクセリアルズ株式会社](#)
50. [中期経営計画 | 経営方針 | 投資家情報 | デクセリアルズ株式会社](#)
51. [中期経営計画 2028「進化の実現」とパーパスの策定について](#)
52. [『デクセリアルズ統合レポート 2024』発行のお知らせ](#)
53. [デクセリアルズ株式会社の業績・将来性・強み・弱み](#)